

A：遠隔医療の技術については、例えばですね、手術の方は今実験的に大学なんかで行われているんですけども、遠隔による診断で慢性疾患のようなものは、地方では結構行われていると聞いたことがあるんですが、ただですね、一般に言いますと、そうですね、遠隔医療は規制がかかってしまっていて、なかなかできない現状がありまして。でも私はですね、遠隔医療を進めること自体は、基本的にはまあ良いことではないかと、そういうふうに思っているですね。

B：そうですね。私も基本的にはですね、遠隔医療はもっとポジティブ取り組んでいいんじゃないかと思ってるんですよ。医療での対面原則というのものも、気持ちとしては分かるんですけども、日本には医師がほとんどない地域が結構たくさんありましてですね、そのような金科玉条的な対面原則は、国民をかえって危険にさらしているのではないかと、そんな気もするんです。

恐らくですね、そんな対面原則を言ってしまうとですね、医療費がどんどんカットされてしまうんじゃないかと警戒されちゃいますし、医療費をそんなに増やせない現状においてですね、国民の命を守るという観点から考えると、まあやはり遠隔治療はきちんとやっていくべきだと思うんですよ。

例えば、**DtoD=マヨイトカ=**、**DtoP**とか**DtoN**、ナース・プラクティショナーはどうするかとか、各論はまあいろいろあるとは思いますが、ただ看護系大学とか大学院をあれだけつくったんですから、ナース・プラクティショナーを養成して、まあ医師の指示、遠隔医療の下で、ナース・プラクティショナーがある程度医療行為をするというのはいいんじゃないかと思ってるんです。